

2024年度  
第15回NP資格認定試験  
受験者用

一般社団法人 日本NP教育大学院協議会

# I. NP資格認定試験

## 1. 試験の施行

一般社団法人日本NP教育大学院協議会規約第2条に基づき、第15回NP資格認定試験を2025年3月2日(日)に実施する。

## 2. 試験の目的

NP資格認定試験(以下試験という)は、診療看護師(NP)としての質を評価・保証し、一定のレベルに達していることを確認することを目的とする。

## 3. 試験の実施体制

公開性、透明性のある試験を実施するために次の組織を設置する。

### 1) 評価委員会

評価委員会は、診療看護師(NP)の質の保証とともに大学院NPコースを修了した学生の知識等が第三者からの批判にも耐えうるものであることを検証するため、年度毎に実施される試験の方法や内容等を評価する。評価委員会のメンバーは以下の通りである。

独立行政法人 国立病院機構      理事長 新木一弘 氏

公益社団法人 日本看護協会      会長 高橋弘枝 氏

日本看護系大学協議会              理事長 鎌倉やよい氏

学識経験者 清水嘉与子氏(日本訪問看護財団前会長)

学識経験者 山本則子氏(東京大学教授)

学識経験者 齋木佳克氏(東北大学教授・心臓血管外科学会理事)

学識経験者 塚田(哲翁)弥生氏(日本医科大学病院教授・日本循環器学会理事)

学識経験者(国外) エクランド 源 稚子氏(Pediatric Medical Group of Tennessee, DNP  
APRN NNP-BC FAANP FAAN)

### 2) 試験WG

試験を円滑に実施するため、実務作業を行うWGを設置する。WGのメンバーは、NP教育を実施または予定している大学から選出された代表者および、NP教育に理解のある第三者等により構成され、試験の公平性および客観性を保持する。なお、WGのメンバー名は公表しないこととする。

## II. 受験資格

### 1. 日本国内の大学大学院修士課程のNP養成コース修了者/修了予定者

一般社団法人日本NP教育大学院協議会が教育課程認定を行った大学院修士課程で、修了に必要な単位を修得し修了試験に合格し各大学院において修了者として認定された者および修了見込みの者。

### 2. 海外のNP(ナースプラクティショナー)の資格取得者

日本国の保健師、助産師、看護師のいずれかの免許を有する者で、米国等の大学院修士課程(NP課程)以上を修了し、それぞれの国等が実施するNPの国家試験等に合格し、NPの免許を取得している者。

※海外のNP資格取得者で本協議会のNP資格認定試験の受験を希望する場合は下記への事前連絡を要する。  
日本NP教育大学院協議会事務局 [maf-jonpf@mynavi.jp](mailto:maf-jonpf@mynavi.jp)

## III. 受験領域

受験可能な試験領域は、大学院修士課程で専攻した下記の領域の中の一つとする。

- (1) プライマリ・ケア (成人・老年)
- (2) プライマリ・ケア (小児)
- (3) クリティカル

## IV. 試験方法

別表に示す科目に応じた出題割合をもとに筆記試験を行う。

表1. NP資格認定試験の出題科目と出題割合

科目	出題割合	科目	出題割合
① NP(診療看護師)論	5%	⑥ 臨床薬理学	10%
② 疾病予防・健康増進	2%	⑦ クリニカルアセスメント	30%
③ 医療倫理	3%	⑧ クリニカルマネジメント	30%
④ 医療安全・関係法規	5%		
⑤ 病態機能学	15%		

## V. 出題基準

### 1. 出題基準に関する基本的な考え方

診療看護師(NP)として、その任務を果たすため、必要な基本的知識及び技能を修得していなければならない。NP資格認定試験は、診療看護師(NP)として当然具備すべき「知識・技能」を修得していることを確認するために行う。出題基準の明示は、受験者に対し出題範囲を提示するだけでなく、社会に対し、NP養成教育の到達目標(履修内

容、範囲とそのレベル等)を示すものであり、診療看護師(NP)の質の担保の一手段でもある。

## 2. 出題基準

出題基準を別紙に示す。出題基準は、科目ごとに大・中項目に分類される。大項目は、NPの到達範囲を大別したもので、プライマリ・ケア領域およびクリティカル領域のNPが、その任務を果たす上で、必要とされる基本的知識・技能の項目を示す。中項目は大項目の内容をさらに細分化し、科目⑤～⑧については、各領域 プライマリ・ケア(成人・老年)、プライマリ・ケア(小児)、クリティカルごとに内容を示した。なお、試験の出題基準に示す内容は、それぞれの大学院修士課程の講義・演習・実習で扱われている内容を超えることもありうる。

## VI. 合格基準

合格基準は、年度毎に評価委員会の審議により決定される。不合格者については翌年度以降の再受験を認める。

令和6年度  
NP資格認定試験出題基準

	大項目	中項目
1) NP(診療看護師)論(5%)診療看護師としての活動の基本となる考え方を問う。		
	1. NPの活動	1. NPの役割・責務
	2. 患者家族との関係	1. 患者・家族の背景の理解 2. 患者・家族の健康教育
	3. チーム医療	1. 医療資源の活用 2. チームの一員としての役割
2) 疾病予防・健康増進(2%)NPの臨床実践で必要となる健康増進・疾患予防に関する知識を問う。		
	1. 疾病予防の基本	1. 公衆衛生の基礎 2. 疾病予防の概念(予防の段階とヘルスプロモーション)
	2. スクリーニングの実施と予防	1. がんのスクリーニング 2. 転倒リスクのスクリーニング 3. その他のスクリーニング(特定健診・フレイル健診、認知機能など)
	3. 予防接種	1. 予防接種実施のためのアセスメント 2. 年齢別・リスク別に必要とされる予防接種
	4. 生活・職場環境に関連した疾病予防	健康行動理論の概念を基盤としたコンディジエーズや頻度の高い状況に関する疾病予防
3) 医療倫理(3%)NPの臨床実践で必要となる医療倫理の知識を問う。		
	医療の倫理と患者の権利	1. 患者の権利と義務 2. 医療倫理原則 3. 患者-診療看護師関係 4. 倫理的意決定 5. インフォームドコンセント
4) 医療安全・関係法令(感染対策を含む)(5%)		
	1. 医療の質と安全の確保	1. 医療の質保証 2. 医療安全の確保 3. 医療関連感染の予防と対策 4. 医薬品の副作用および医療機器の不具合の報告 5. 血液・血液製剤の安全性 6. 医療訴訟
	2. 看護職の職務と役割	保健師助産師看護師法
	3. 医療従事者の職務と役割	医師法、薬剤師法、診療放射線技師法、臨床検査技師法など他職種についての法律
	4. 医事関連	医療法
	5. 母子保健	1. 母子保健法 2. 児童福祉法
	6. 成人・高齢者保健	3. 医療的ケア児及び家族に対する支援に関する法律 1. 高齢社会対策基本法 2. 高齢者の医療の確保に関する法律(高齢者医療確保法) 3. 配偶者からの暴力防止、及び被害者の保護に関する法律(DV法) 4. 高齢者虐待の防止、高齢者の擁護者に対する支援などに関する法律 5. 健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病にかかる対策に対する基本法
	7. 地域保健	1. 地域保健法 2. 健康増進法
	8. 学校保健	1. 学校保健安全法 2. 学校伝染病
	9. 産業保健	1. 労働基準法 2. 労働安全衛生法 3. 育児や介護休業等、育児や家族介護を行う労働者の福祉に関する法律(育児・介護休業法)
	10. 感染症対策	感染の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)
	11. がん対策	がん対策基本法
	12. 臓器移植対策	臓器の移植に関する法律
	13. 災害関係	災害基本法
	14. 医療保険	1. 健康保険法 2. 国民健康保険法
	15. 社会福祉・介護	1. 老人福祉法 2. 生活保護法 3. 障害者基本法 4. 自殺対策基本法 5. 介護保険法 6. 精神保健福祉法
	16. 薬事関連	薬機法
	17. 倫理	個人情報保護法、研究倫理
5) 病態機能学(15%)クリニカルアセスメント・クリニカルマネジメントに必要な病態機能学の基礎知識を問う。		
	1. 人体の構造と機能	1. 細胞と組織・臓器 2. 呼吸器 3. 循環器 4. 消化器 5. 血液・造血器 6. 腎・泌尿器、生殖器 7. 筋骨格系 8. 皮膚・感覚器 9. 神経系 10. 内分泌、栄養・代謝 11. 免疫系 12. 成長・加齢
	2. 症状・症候と疾患	1. 主要な症状・症候の病態 2. 呼吸器の症状・症候と疾患 3. 循環器の症状・症候と疾患 4. 消化器の症状・症候と疾患 5. 血液・造血器、リンパ・免疫系の症状・症候と疾患 6. 腎・泌尿器、生殖器の症状・症候と疾患

※1:プライマリ・ケア成人・老年、小児  
※2:クリティカル

令和6年度  
NP資格認定試験出題基準

	7. 筋骨格系の症状・症候と疾患
	8. 皮膚の症状・症候と疾患
	9. 感覚器、神経系の症候・症状と疾患
	10. 内分泌、栄養・代謝に関連した症状・症候と疾患

大項目	中項目
6) 臨床薬理学(10%)薬物療法の実施(患者のQOLを考慮した薬物の選択、決定、処方、患者教育)と薬物療法の効果判定に必要な知識を問う。	
1. 薬物療法の概念	1. 投与レジメンとアドヒアランス 2. 薬剤過誤 3. 薬物相互作用 4. 薬効の個人差
2. 薬物動態	1. 薬物-受容体相互作用 2. 化学的相互作用 3. 用量反応関係
3. 薬力学	1. 禁忌、慎重投与 2. 薬物アレルギー
4. 薬物有害反応	用法、容量、服薬計画
5. 薬物療法の計画	服薬指導
6. 患者教育	
7) クリニカルアセスメント(30%)治療的コミュニケーション、包括的アセスメントや焦点化された健康歴の聴取、フィジカルアセスメントの実施に必要な知識を問う。また、診断に必要な検査に関する知識を問う。	
1. 医療面接	1. 医療面接の目的とその視点 2. 医療面接の方法 3. 健康歴の聴取 4. 家族歴の聴取 5. 患者・家族のニーズの把握
2. フィジカルアセスメント	1. フィジカルアセスメントの基本手技 2. 全身の観察 3. 頭頸部のフィジカルアセスメント 4. 胸部のフィジカルアセスメント 5. 腹部のフィジカルアセスメント 6. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 7. 神経系のフィジカルアセスメント 8. 四肢のフィジカルアセスメント 9. 精神面のアセスメント 10. 日常生活動作(ADL)の評価 11. 栄養状態のアセスメント 12. ドメスティック・バイオレンス、虐待のアセスメント
3. 診断に必要な臨床検査	1. 検査の意義 2. 検査の種類と特性 3. 検査の安全 4. 検体の採取・保存 5. 一般臨床検査 6. 血液検査 7. 生化学検査 8. 内分泌・代謝機能検査 9. 微生物学・免疫血清学検査 10. 細胞診・病理検査 11. 機能等の検査 12. 画像検査(単純X線写真、CT、MRI、PET、超音波検査など) 13. 検査の感度と特異性
8) クリニカルマネジメント(30%)アセスメントの結果にもとづき、患者のQOLを考慮した、NPとしての治療計画を立案し、実施するための知識を問う。	
1. 臨床判断	1. 根拠に基づいた医療(EBP) 2. 治療の必要性の判断 3. 治療の効果と効率 4. 医療データの種類の活用
2. 治療・処置の基本	1. 治療・処置の目的 2. 治療・処置の種類と特性 3. 患者のQOLを考慮した治療計画 4. 治療への動機付け 5. プライマリNPに必要な治療・処置(※1のみ) 6. クリティカルNPに必要な治療・処置(※2のみ)
3. 食事・栄養療法の基本	1. 年齢別、性別、リスク別の食事・栄養療法の基本 2. 栄養摂取の方法
4. 輸液・輸血、血液浄化	1. 輸液 2. 輸血 3. 血液浄化
5. 創傷・褥創の処置	創傷・褥創処置の目的と方法
6. 瘻孔・ストーマの管理	瘻孔・ストーマ管理の目的と方法
7. 周手術期患者のマネジメント(※2のみ)	1. 術前患者のマネジメント 2. 術中(麻酔を含む)患者のマネジメント 3. 術後患者のマネジメント 4. 移植の種類と適応
8. 放射線治療を受ける患者のマネジメント(※2のみ)	1. 放射線治療の適応 2. 放射線治療の副作用 3. 集学的治療
9. インターベンショナルラジオロジー(IVR)処置を受ける患者のマネジメント(※2のみ)	1. 血管系IVR 2. 非血管系IVR
10. 内視鏡治療を受ける患者のマネジメント(※2のみ)	種類と適応
11. リハビリテーション(※1のみ)	リハビリテーションの適応

※1: プライマリ・ケア成人・老年、小児  
※2: クリティカル

令和6年度  
NP資格認定試験出題基準

12. ホスピス・緩和ケア	1. ホスピス・緩和ケアの基本 2. 薬物療法を含めた痛みのマネジメント 3. その他の症状マネジメント
13. 精神疾患をもつ患者のマネジメント	1. 精神的な訴えがある患者へのアプローチ 2. 症状性・器質性精神障害

大項目	中項目
13. 精神疾患をもつ患者のマネジメント	3. 精神作用物質使用による精神および行動の障害 4. 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害 5. 気分(感情)障害 6. 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害、不安障害 7. 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 8. 人格および行動の障害
14. 皮膚疾患をもつ患者のマネジメント	1. 過敏症・炎症性皮膚疾患 2. 感染性皮膚疾患 3. 角化障害 4. 乾癬および鱗屑を伴う疾患 5. 蕁麻疹・痒疹・皮膚掻痒症 6. 物理・化学的皮膚障害(凍傷、褥創、鶏眼など) 7. 毛髪の異常(※2を除く) 8. 皮膚科外用療法の原則
15. 頭頸部疾患をもつ患者のマネジメント	1. 眼部の疾患(※2を除く) 2. 耳部の疾患(※2を除く) 3. 口腔、鼻腔・咽頭・喉頭疾患
16. 呼吸器疾患をもつ患者のマネジメント	1. 感染性疾患 2. 閉塞性疾患 3. 炎症性・アレルギー性疾患 4. 肺循環障害(肺高血圧、肺水腫など) 5. 胸腔の疾患 6. 機能的呼吸障害(睡眠時無呼吸症候群など)
17. 循環器疾患をもつ患者のマネジメント	1. 不整脈 2. 高血圧症 3. 虚血性心疾患 4. 心臓弁膜症・心内膜炎 5. 心筋疾患・心膜疾患 6. 大動脈疾患、末梢動脈疾患、静脈疾患 7. 心不全
18. 消化器疾患をもつ患者のマネジメント	1. 食道疾患 2. 胃・十二指腸疾患 3. 小腸・大腸疾患直腸・肛門疾患 4. 肝疾患 5. 胆道疾患 6. 膵疾患
19. 血液・造血器疾患をもつ患者のマネジメント	1. 貧血 2. 出血性疾患
20. 腎・泌尿器、生殖器疾患をもつ患者のマネジメント	1. 腎疾患 2. 泌尿器疾患 3. 男性の生殖器疾患 4. 女性の生殖器疾患
21. 神経、筋・骨格系の疾患をもつ患者のマネジメント	1. 中枢神経疾患 2. 末梢神経疾患 3. 筋疾患 4. 骨・関節疾患
22. 内分泌疾患をもつ患者のマネジメント	1. 視床下部・下垂体疾患 2. 甲状腺疾患と副甲状腺疾患 3. 副腎疾患
23. 代謝疾患をもつ患者のマネジメント	1. 代謝異常(糖質・脂質・たんぱく・アミノ酸など) 2. 水分と電解質代謝の異常 3. 酸塩基平衡の異常
24. 免疫に関連した疾患をもつ患者のマネジメント	1. アレルギー性疾患 2. 自己免疫疾患
25. 感染症をもつ患者のマネジメント	1. ウィルス性感染症 2. 真菌、寄生虫、その他の感染症
26. がん患者のマネジメント	1. 皮膚、頭頸部 2. 呼吸器、消化器 3. 血液・造血器 4. 腎・泌尿器、生殖器 5. 神経、筋・骨格系 6. 内分泌、乳腺
27. 初期救急患者のマネジメント	1. 救急患者の診察 2. 基本的な救急処置 3. 症状・症候別の初期対応 4. 災害トリアージと初期処置 5. 救急医療システム
28. 2次救急患者のマネジメント(※2のみ)	1. 初診時の診察 2. 病態に応じた診察 3. 症状に応じたマネジメント
29. 死	1. 死の概念と定義 2. 死後変化 3. 突然死 4. 死後の各種手続きの概要

※1:プライマリ・ケア成人・老年、小児  
※2:クリティカル